

事業報告書

【おとなが学ぶ子どもの性～心とカラダを大切にするために～】

日時	平成 29 年 5 月 18 日 (木) 14:00~16:00
目的	おとなが子どもの性に対する現状を知り、思春期の子どもに身体や性について科学的に正しく伝える重要性及び具体的な方法を学び、啓発することを目的とする。
対象	関心がある方
講師	徳永 桂子 氏 (思春期保健相談士)
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる3階 研修室 1・2
定員	30 名 [申込者数 56 名]
参加者数	45 名 (男性 5 名・女性 40 名)
講演内容 (概要)	<p>からだの科学〔3つの視点〕</p> <p>① 科学 自分のカラダについて科学的に正しく学ぶことは、子どものカラダに対する興味を引き出し、自分のからだを大切にしたいと思う気持ち (自尊感情) を育てる。自尊感情が十分に育っている子どもは、あらゆる暴力に遭いにくく、適切な保健行動が取れることが明らかになっている。</p> <p>② 安全 WHO や内閣府の調査結果を見て、子どもたちの被害実態を知り、なぜほとんどの子どもが被害にあったことを誰にも言えないのかグループで考え、親子で性について話し合える関係を作ることが予防に有効なこと、日常生活の中でできる子どもへの働きかけを具体的に知る。また、男子の性被害について、いじめの中で多発している状況についても紹介があった。</p> <p>③ 健康 性感染症について、性行為で感染する病気を性感染症と呼び、主だったものだけで現在日本には 50 種類以上ある。若い世代での感染の広がりについて子どもたちに伝える必要がある。</p> <p>性教育の有効性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国連の調査報告 (1997) では、効果的なプログラムは最初の性交を遅らせ、HIV を含む性感染症や予期せぬ妊娠から守るのに役立っている。性教育は、性行動が始まる前に行うと最も効果があると紹介。 <p>青少年の性行動全国調査報告のデータから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートDVの実態の紹介と周りのおとなにできる支援について。 ・「男子の草食化&女子の肉食化」のウワサの間違いと恋愛の中のジェンダーバイアスについて。 <p>子どもたち向けの授業の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作り教材と指導用教材による実演
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・驚くことに、体の作りについて初めて知ることが多かったです。本日学んだ事を職場の中で実践していきたいです。 ・今までタブーに消極的でしたが、今後はわかりやすいように積極的に話が出来るように努力したいです。孫たちに正しい知識で私も話していきたいです。勉強させていただき有り難うございました。感謝! ・思春期の性、性加害、被害のどちらの課題のある児童と関わる仕事で日々難しさを感じています。禁止、常識への修正だけでは行きづまりも感じていてやはり基本は自分を大切に、生き生きと話せるようになることなのかなと思いました。(一部抜粋)
写真	
主催等	沖縄県・(公財) おきなわ女性財団